

2023 AC

The 2nd Celebrate Hanukkah

原語で味わう創世記第2章

12/24~31

No.10 30日(朝)

「創世記2章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】ヨハネの福音書5章39～40節

39 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

40 それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

●イエシュアは私たちに聖書を正しく解釈することを教えています。それは、イエシュアという鍵を入れ込むことで、初めて言わんとすることが見えて来るということです。

「創世記2章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】イザヤ書34章16節
主の書物を調べて読め。
これらのもののうち、どれも失われていない。
それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。
それは、主の口がこれを命じ、
主の御霊がこれらを集めたからである。

※「自分の伴侶」(=雌も雄も)にたとえられているのは、神のことばの証言が必ず伴侶のように置かれているからです。「調べて」は「尋ね求める」の「ダーラシュ」(דָּרַשׁ)、「読む」は「出会う、見つける、向かい合う」の「カーラー」(קָרָא)です。そうするなら、必ず「ふさわしい助け手」(自分の伴侶)に出会うのです。主の口(男性形)とそれを集める御霊(女性形)は一對だからです。

「創世記2章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、
まだなされていないことを昔から告げ、

『わたしの計画は成就し、
わたしの望むことをすべて成し遂げる』という。

①ここには強調するために、パラレリズム修辞法が使われています。

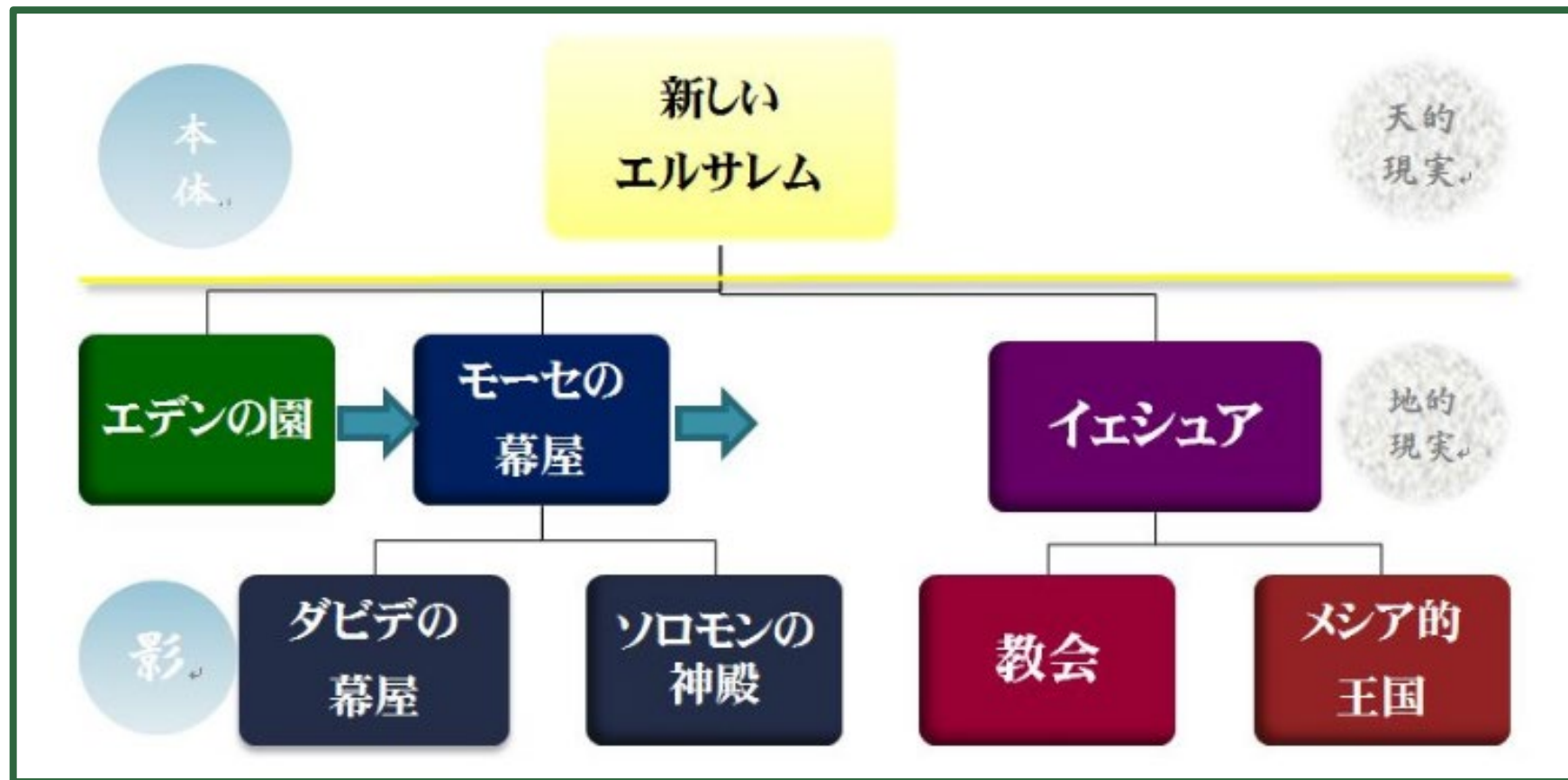
②初めのなかに後のこと、まだなされていない将来のことが
折り重なるようにして(重層的に)告げられているということです。

「・・・こと」とは「神のご計画」のことです。

これを知るためには、たましいではなく、霊の中で悟る必要があるのです。

「エデンの園」の本体は「新しいエルサレム」

- それは「天」にあり、しかもすでに完成されているのです。



1. 前回の補填 ①

●前回の要点として、人にとって「ふさわしい助け手」とは同じ霊を持つ存在であるのは自明の理です。問題は、その「霊」が「あばら骨」であることを示す伴侶となるべきみことばの有無でした。その論証の一つとして、「あばら骨」(「ツエーラー」 צוֹלָר)が幕屋を建て上げるためになくってはならない聖所の側面を、さらに幕屋の至聖所にある「**契約の箱**」の側を表しているということです(出25:12参照)。至聖所は人の「霊」に相当します。

箱のために金の環を四つ鑄造し、その四隅の基部に取り付ける。一方の**側**に二つの環を、もう一方の**側**にもう二つの環を取り付ける。

(「環」は「タツバアット」 תַּצְבֵּאוֹת で「**指輪**」を意味します)



1. 前回の補填 ②

●さらなる論証として、「あばら骨」の語源となる動詞「ツアーラ」(ツ_{וּ}אָרָא)には「足を引きずる」という意味があり、それは「ヤコブ」(イスラエル)のことであることを見ました。そして最後の論証として、マラキ書2章15節にある「一体」という概念に、それを保つべき「**霊の残り**」があることを見ました。このようにして、人の「あばら骨」である「**霊**」から「ふさわしい助け手」が造られたのでした。

●さらに、「深い眠り」には「死」が含まれていることも述べました。つまり「人」には「最後のアダム」が重ねて預言されており、重層的な意味を含んでいます。したがって、人から造られる「女」にも**重層的な意味がある**ということが、今回の重要なテーマです。

2. 22節のテキスト ①

【新改訳2017】

神である主は、人から取ったあばら骨を
一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。

● 第一情報である原文は次頁参照。

● 今回の箇所ですべて初めて出て来る語彙は二つです。
それは「女」と「造り上げ(た)」という語彙です。

(1) 「女」は「イツシャー」(אִשָּׁה)

(2) 「造り上げた」は「バーナー」(בָּנָה)

「組み立てる、(家・神殿を)建てる」とも訳される「建築用語」です。

2. 22節のテキスト ②

エローヒーム アドナイ ヴァイヴェン
וַיְבַן יְהוָה אֱלֹהִים |

神である 主は 造り上げた [בָּנָה]

レイツシャー ハーアーダーム ミン ラーカハ アシエル ハッツエーラー エット
אֶת־הַצֶּלַע אֲשֶׁר־לְקַח מִן־הָאָדָם לְאִשָּׁה

ひとりの女を その人 から 取った ところの そのあばら骨 によって(前置詞)

ハーアーダーム エル ヴァイエヴィエハー
וַיָּבֵא אֱלֹהֵי אָדָם :

その人 に そして彼女を連れて来た

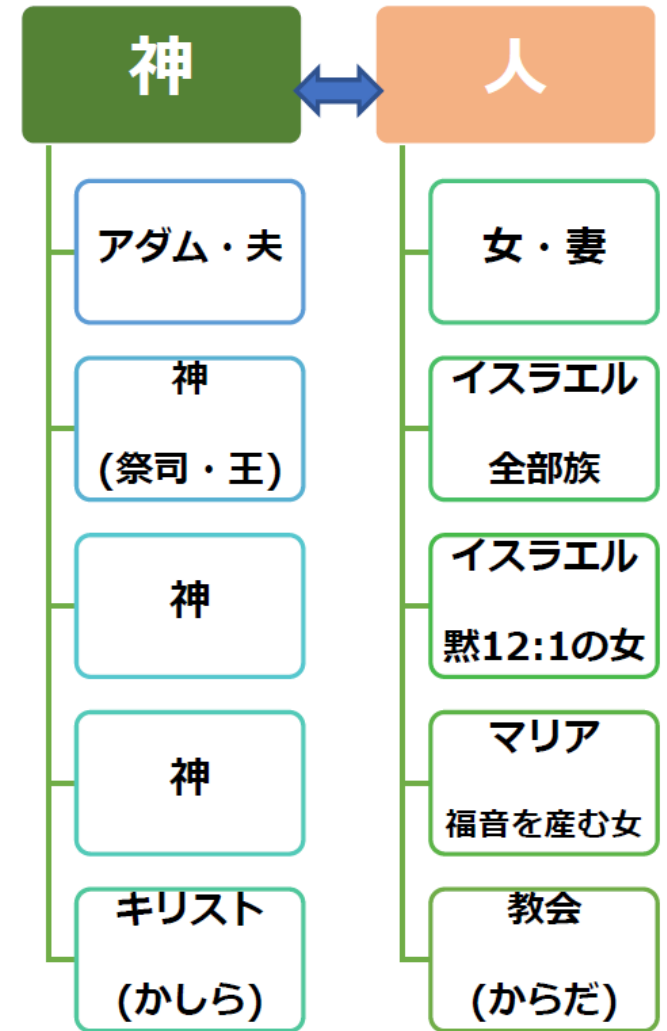
[בָּא]

3. 「女」の重層的な意味 ①

● 聖書における「女」は「人の妻」という意味だけではなく、**神の民すべてを代表**しています。

- ① 神の妻であるイスラエルの民
- ② 人の子イエシュアを産む母マリアは「福音」を生み出す女(ロマ1:2~4)
- ③ 男の子を産む女=イスラエルの残りの者(黙示12:5)
- ④ キリストの花嫁であるエックレーシア

● 神の御前における立場は、すべて「女」(妻/花嫁)の「イツシャー」(אִשָּׁה)です。



3. 「女」の重層的な意味 ②

① 御子イエシュアを産む母マリアは「福音」を生み出す女

【新改訳2017】ローマ人への手紙1章2～4節

- 2 —この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、
- 3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、
- 4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。

② 「男の子」(殉教する異邦人—勝利者)を産む女(イスラエルの残りの者)

【新改訳2017】ヨハネの黙示録 12章5節 (=創世記3章16節の預言の成就)

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

※ここの「女」は2節にあるように「身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた」とあります。この表現はイエシュアを産んだマリアにはふさわしくありません。

3. 「女」の重層的な意味 ③

(1) 「都」「城壁」「エルサレム」も女性名詞

●神の民だけでなく、エルサレムの「都」(「イール」 יְרוּשָׁלַיִם)と「城壁」(「ホーマー」 חֹמֹת)、および「シオンの娘」(エルサレムの町の詩的表現)はすべて女性名詞です。それらは神によって「建て上げられる」だけでなく、神によって「再建され、築き直される」のです。

【新改訳2017】詩篇127篇1節
主が**家**を建てるのでなければ 建てる者の働きはむなしい。
(※家=都=エルサレム)

【新改訳2017】詩篇51篇18節
どうかご**恩寵**により シオンに**いつくしみ**を施し
エルサレムの**城壁**を築き直してください。

3. 「女」の重層的な意味 ④

(2) 「エックレーシア」も女性名詞

- 「エックレーシア」(ἐκκλησία)も女性名詞です。これは建物のことではありません。霊的な存在であり、イエシュアは「わたしの教会」と言っています。
- 「エックレーシア」は「教会」「集会」「会衆」「召会」「召衆」と訳されています。ヘブル語は「カーハール」(קָהָל)。

【新改訳2017】 マタイの福音書 16章18節
そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。
わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます(קָהָל)。
よみの門もそれに打ち勝つことはできません。

4. 「造り上げた」(「バーナー」 בָּנָה) ①

●創世記1～2章には、神が①～④であることが記されています。

①創造者—天と地(神と人が共に**住む家**)を**創造する**(「バーラー」 בָּרָא)

②制作者—大空を**造る**(「アーサー」 אָשַׁר)

③陶器師—人を**形造る**(「ヤーツアル」 יָצַר)

④建築家—女に**造り上げる**(「バーナー」 בָּנָה)(=**建て上げる**)

●「バーナー」(בָּנָה)の中に、神の御子を意味する「ベーン」(בֵּן)が隠されています。エックレーシアはキリストの花嫁であり、その**花嫁を建て上げるのは花婿なるキリストであるというメッセージが隠されています**。つまりキリストの花嫁であるエックレーシアは、花婿キリストの死を通して、花婿の「ふさわしい助け手として」建て上げられるべき存在だということです。

4. 「造り上げた」(「バーナー」 בָּנָה) ②

● 22節でなぜ「女」に「造り上げた」としているのでしょうか。ここで初めて使われる「バーナー」(בָּנָה)は、家や神殿を建てる、町を建てる、城壁や祭壇を築くという意味の他に、それらを「**建て直す、再建する**」、国や民を「**復興する**」という意味もあります。これはきわめて預言的です。「造り上げる」神は、再建と復興の神、死と復活の神でもあるということです。

【新改訳2017】エレミヤ書1章10節

見なさい。わたしは今日、あなたを諸国の民と王国の上に任命する。
引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し、**建て**、また植えるために。」

● 「引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し」はエルサレムに対するわざわい、滅びを意味する「煮え立った釜」のヴィジョン(1:13~16)。「建て、植える」はエルサレムの復活(復興)を意味する「アーモンドの枝」のヴィジョン(1:11~12)。ここにある「**建て**」が「バーナー」(בָּנָה)です。

4. 「造り上げた」(「バーナー」 בָּנָה) ③

●新約の「エックレーシア」にも「建て上げる」(バーナー)という思想が受け継がれています。「建て上げる」のギリシア語は「オイコドメオー」(οἰκοδομέω)です。名詞は「オイコドメー」(οἰκοδομή)で「建造、建て上げ、成長、育成」を意味します。それは数や量のみならず、霊的な「愛によるいのちの交わりの概念」です。

(1)動詞(「オイコドメオー」 οἰκοδομέω)の例

①【新改訳2017】使徒の働き9章31節

こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり**築き上げられて**平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。

②【新改訳2017】使徒の働き20章32節

今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを**成長させ(育成し)**、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。

4. 「造り上げた」(「バーナー」 בָּנָה) ④

③ 【新改訳2017】 I ペテロの手紙 2章5節

あなたがた自身も生ける石として霊の家に**築き上げられ**、神に喜ばれる
霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

④ 【新改訳2017】 I コリント人への手紙 8章1節

・ ・ しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人を**育てます(徳を建てます)**。

(2)名詞(「オイコドメー」 οἰκοδομή)の例

① 【新改訳2017】 エペソ人への手紙4章12節

それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを**建て上げる**ためです。

② 【新改訳2017】 エペソ人への手紙4章16節

キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わせられ、
つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、
愛のうちに**建てられる**こととなります(=造り上げられていくのです)。

③ 【新改訳2017】 エペソ人への手紙4章29節

悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、
人の**成長(=その人を造り上げる)**に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

4. 「造り上げた」 (「バーナー」 בָּנָה) ⑤

- 神である主は、「御子」 (יְהוָה) をなくてはならない「要石、親石、かしら石」 (אבן) として、神と人がともに住む家を「建て上げ、再建されます」 (בָּנָה)。
- このことを「わきまえ知り」 (יָדַע)、
「悟ること」 (הִתְבָּרַךְ) が重要なのです。



今回のまとめ

1. 女に「造り上げた」と訳された「バーナー」には、神の民の建造と再建を含む神のご計画が示されています。つまり、イエシュアの死と復活によって、「終わりの日」に究極的に再建される「イスラエルの残りの者」と「エックレーシア」(ユダヤ人と異邦人)、それらが創世記2章22節に隠された「女」です。
2. 「バーナー」は霊的な建造を意味し、神の愛のいのちの交わりによって霊の家が築き上げられることを意味します。
3. 「打ち壊し、建て直す」(「死と復活」)は、神の民に対する主のあわれみのしるしです。万軍の主の熱心(ねたみ)がこれを実現するのです。